

# Startings Over

宮本星美

清々しい朝の教室、学級委員の本間舞が毎朝の日課である椅子の整頓をしている。続々と登校してくる生徒たち（登場のときにストップモーション）。不良少女の山崎美玲は、いちばん後からやってくる。頭には校則違反の今流行の花をしている（美玲、登場時のストップモーションで、全員美玲の頭に注目）。丹野・石田・尾崎が美玲と四人で頭の花について話す。本庄は一人で勉強している。黒板掃除をしていた学級委員に石田がぶつかり、学級委員がその花に気づき、美玲に注意する。

学級委員その花、取りなさい。

美玲なんで、いいじゃない。

学級委員駄目、取りなさい。

美玲うるさいなあ。

学級委員取りなさい。

美玲嫌だね。

学級委員取りなさいったら、取りなさい。

美玲嫌だったら嫌。

野次馬の生徒たちが賭をはじめめる。

丹野美玲が勝つと思う人。

生徒たち、美玲派（石田・丹野）と学級委員派（尾崎）に分かれる。

学級委員ねえ、なんで今日は☆花☆なんてしてきたの？

美玲 今日は、私の誕生日なの。

学級委員それは、おめでとう。でもね、☆花☆などの髪飾りは校則で禁止されているのよ。

美玲 それくらい、私だって知ってるわよ。

学級委員じゃあ、どうしてそういうことするのよ。

美玲 じゃあ、どうして、☆花☆をしてきちゃいけないのよ。

学級委員決まってるでしょ、校則違反だからよ。

美玲 だから、なんだっていうのよ。誰かに迷惑かけてるわけじゃないでしょ。

学級委員かけてるわよ。あなたが先生に見つかったら、私まで起こられるのよ。

美玲 それは、どうもすみませんね。でも、しかたがないんじゃないの？本間は学級委員なんだから、いつも偉そうにその趣味の悪い学級委員バッヂつけて、特権振りかざして、自分の都合のいいようにクラス運営してるんじゃない。そのくせ、やけに先生に気に入られちゃってさ。それが学級委員の権利なら、怒られるのは学級委員の義務よ。

学級委員美玲、あんた、なんてこと言うのよ。私はね、いつもクラスのことを考えているのよ。どうしたらみんなが楽しい学校生活を送れるかってことをね。美玲 だったら、私だって同じよ。（美玲と学級委員、位置入れ替わる。後ろの生徒たちも入れ替わり対峙する）

美玲 この平凡で単調な学校生活に少しでも変化をつけて、みんなを楽しませてあげようと思って花つけてきたのよ。本当はみんなだっこのうことやりたいのよ。でも規則を破ることが怖くてできない。だから、私が代わりにやってあげたのよ。本間だっ、本当はやりたいんじゃないの？

学級委員 あんたなんかと一緒にしないでよ。私はね、やりたくても我慢できるのよ。そこがあんたとは違うの。

美玲 我慢するってことが、そんなにすごいことなわけ？何よ、偉そうに、学級委員だからって威張らないでよ。

学級委員 美玲こそ何よ。たかが誕生日だからって、校則違反しないでくれる？

美玲 誕生日っていうのはね、自分が生まれた日なの。一年に一度しか来ないのよ。いいじゃない、花くらいしてきたって。

学級委員 だから、そういう勝手な行動が迷惑だっ言ってるのよ。

美玲 迷惑迷惑って、一体何が迷惑なの？

学級委員 あんたなんてね、存在自体がこの学校の迷惑なのよ！

美玲、学級委員を突き飛ばす。生徒たち、大騒ぎ。チャイムが鳴り、各々の席へ。

学級委員 起立、礼、着席。

先生（はや回し録音で）何ですか、この騒ぎは？

学級委員 すみません。山崎さんが校則違反をしていたので、注意していたんです。

先生（はや回しで）山崎さん、前へいらっしやい。なんですか、その☆花☆は？

山崎（前へ出ながら）なんですかって花☆は☆花☆です。今日は私の誕生日なので自分のお祝いをしているんです。

先生（はや回しで）でも、あなたがやっていることは校則違反ですよ。

美玲それくらい、分かっています。じゃ、どうして☆花☆つけてきちゃいけないんですか？

学級委員だから、さつきから言ってるでしょ！

美玲うるせえんだよ、てめえは！

先生（はや回しで）なんですか、その言い方は、廊下で反省しなさい。

美玲、廊下に出る

先生（はや回しで）今日はこのクラスに転校生が来ることになっています。

石田えっ、転校生ですか？

生徒全員、喜び驚く。ストップモーション。転校生、上手奥から登場。彼女の服装はアロハシャツに破れたジーンズの短パン、裸足でバッシュを履いていて、サングラスをかけている、というアメリカの若者といった格好。そして、手にはウクレレとスケートボードを持っている。

転校生アロハ！エブリバデイ！

転校生、ウクレレを鳴らす。皆、驚く

転校生ハワイのセント・メアリー・ハイスクールから転校して来ました。ヨシコ・ジョージア・シミズです。よろしく!

尾崎え?ジョージアって、ひょっとしてハーフ?

転校生(歌う)サクラーサクラー。

転校生(ウクレレを弾きながら)ノンノンノン、父も母も日本人です。だから家では日本語を喋っていました。

学級委員 I am class reader of this class. よろしく!二人、握手。

丹野ねえ、ハワイの学校ってどんなだった?

転校生向こうの学校では、エレメンタリースクールから、ハイスクールまで同じ敷地内にあっただので、みんな仲良しでした。

石田ねえ、ハワイの人ってみんなこんな着て(フラダンスの衣装をジェスチャーで)こーんなの踊ってるの?(フラダンスを踊る)

転校生まさかー!(後ずさりし、椅子に引っかかる)

学級委員あー!私がさっき真っ直ぐに直したんだから、動かさないでよ。(椅子を直す)

転校生まっすぐ、?どうして、まっすぐにしておかなければならないんですか?

学級委員当たり前でしょ、それは……。

日下田(遮るように)ねえねえ、なんのクラブに入ってたの?

転校生マリンスポーツをやってました。サーフィン、ヨット、水上スキーにボディーボードにダイビング！毎日、毎日、毎日……海、行っていました。（眼はハワイの海を思い出し、遠くを見つめている。みんな遠くを見つめる）

丹野（吸い寄せられるように転校生に近づき）いいなあ……でもその代わりに、色白いんだね。ねー！（みんな騒ぐ）あ、ねえねえ彼氏とかいたー？  
転校生はい、いました。

石田えー、やっぱり、金髪で眼青くって、鼻高くって優しくてー。

丹野それで（転校生を見て）、ペアルックでアロハシャツでウクレレとか持ちっちゃってんじゃないのー？（みんな騒ぐ）

学級委員先生！清水さんはどうして私服を着ているのですか？

先生（しゃべる）転校生え、私服じゃ行けないんですか？

先生（しゃべる）

転校生え、サンングラスもー？

学級委員当たり前じゃない。校則で決まってるんだから。

転校生校則？

日下田学校の決まりのことよ。

本庄スクールルールですね。

転校生向こうの学校では、麻薬禁止以外は何も……。

生徒どよめく。

石田でも、その派手な格好はやめた方がいいよ。

転校生どうしてですか？石田だって、あの風紀軍団に見つかったらどうするのよ。

風紀軍団、登場。

団長通報があったのは、このクラスか？

軍団はい、そうです。

団長問題の生徒は？お前か、なんだそれは！そのスケートボードを取り上げろ！

団員岸本風紀とはなあ、風俗、風習に関する規律だ。我々はそれを取り締まっているんだ。

転校生そうですか、ご苦労様。

団長待て！お前、見たことの無い顔だな。誰だ、お前は。

転校生今日ハワイから転校して来ました。ヨシコ・ジョージア・シミズですよろしくー。(手を差し出す)



団長（それを払って）ハワイか、どうりで妙な格好をしていると思った。

転校生私、この服大好きなんです。

団長しかし、この学校では、その格好は校則違反だ。

転校生校則違反？ 副団長そうだ。この学校にはな、戦後まもなく創立者によって定められた尊い校則があるんだ。それを守らない者は、校則違反者として、厳しい罰則が待っているんだ。

転校生どんな校則があるんですか？

副団長よし、読んでやれ。

軍団はい。

副団長花摘学園、生徒心得。その一、頭髮および関連事項について。

団員加藤一つ、頭髮は常に清潔、端正であること。一つ頭髮のカットは盆と正月のみ許可する。また、カットする際は髪型を图示し、提出し、許可を得ること。

団員岸本一つ、化粧・眉剃り・眉カット・マニキュア等はしてはならない。

団員島山一つ、にきび等、吹き出物がある生徒は、学校指定の病院で早めに治療を受けること。

団員秋元一つ、学校のトイレを使用する際、トイレットペーパーの使用は二十センチ以内とすること。

団員加藤一つ、金歯、銀歯等の、華美は歯はされること。など！

転校生（笑う）副団長何

がおかしい！

転校生だって……ほんとうにこんな守っているんですか？

団長当たり前だ。校則は学校の最高権威だ。スケートボードなど学校に必要なものは持つてきてはいけない。他にもまだまだたくさんあるぞ。例えば、サングラス等、装飾品を付けてきてはいけない。

副団長さあ、そのサングラスをはずせ！軍団はずせ！

照明変わる。

美玲が転校生を廊下に連れ出す。創意工夫のある風紀検査が展開する。

副団長 これから風紀検査を行う！まずは、化粧検査だ！化粧検査には……（取り出す）「化粧吸い取りシート」だ！説明しよう。化粧吸い取りシートとは、これに押し付けるだけで化粧がすべて取れてしまうのだ。行くぞ！（生徒を二人だし、一人が化粧をしていることが分かる）

副団長団長、化粧をしている者がおります。

団長違反メダルを。（副団長、生徒の首に掛ける。）

副団長 次に下着検査だ！下着検査には……（取り出す）「すけすけ眼鏡」だ！説明しよう。すけすけ眼鏡とは、服を通して下着だけが見える眼鏡である。行くぞ！（生徒を二人だし、一人が華美な下着を着けていることが分かる）

副団長 団長、規定以外の下着を身につけている者がおります。

団長 違反メダルを。（副団長、生徒の首に掛ける）

副団長 次にピアス検査だ！ピアス検査には……（軍団の一人が準備する）「ピアスばればれマシン」だ！説明しよう。「ピアスばればれマシン」とは、棒に針を取り付けただけの超低価格マシンである。行くぞ！（生徒を二人出し、一人がピアスの穴を開けていることが分かる）

副団長 団長、ピアスの穴を開けている者がおります。

団長 違反メダルを（副団長、生徒の首に掛ける）

副団長 違反メダルを貰った者には校則違反者として罰を与える。まずは「三回回ってワン」だ！次にくじを引け、当たった奴には校則スカートをやるぞ。明日からお前はクラスの人気者だ。

団長 ばか者ども！一生やってろ！行くぞ！（去る）

転校生、美玲、入ってくる。生徒たちは違反者に駆け寄る。

転校生 ねえ、これが風紀検査？

美玲 そうよ。たいてい週に一回ぐらい。ときどき予告なしで来るけど。

転校生（笑って）ばかみたい。

石田 しっ！また風紀軍団が来たらどうするのよ。

風紀軍団、ふたたび登場。転校生は軍団の後ろに着いて真似をしている。

副団長 清水淑子、お前はまだ自分のしたことが分かってないようだな。

転校生 分からないわ。だって、私がやっていることは悪いことじゃないもの。それに違反者だって、罰を受けるようなことは何もしてないわよ。あなたたちがやっていることのほうが、よっぽどおかしいわ。

軍団全員が棒を突く。

畠山 なんだと！お前、そんなことを言っているのか。あとで後悔するぞ。

転校生 後悔なんかしないわ。

丹野（転校生を止めようとしながら）もうやめてよ、ジョージア！

（軍団全員が棒を突く）

団長 改心部屋へ連れて行け！

生徒たち、操られているかのように、転校生を椅子で囲み、校訓「花となれ」の掛け軸が現れると、生徒たちは操られたまま後方に座る。

団長 お前もなかなかいい度胸をしているな。風紀軍団にこれだけ楯突いた奴は初めてだ。だが、ここまでだ。ここでは、アメリカのように自由に振る舞うわけにはいかんぞ。なにしろここは、恐怖の改心部屋だ。後ろを見ろ！

転校生（後ろを振り返り校訓を見る）花となれ……

副団長 そうだ。お前、花の意味を知っているか。（軍団全員、棒を突き）恥じらい

団員岸本（軍団全員、棒を突き）優雅

団員島山（軍団全員、棒を突き）名誉

団員岸本（軍団全員、棒を突き）栄華

団員秋元（軍団全員、棒を突き）清楚

副団長（軍団全員、棒を突き）組織

団長 一つの花でなんになる。同じ色、同じ形が集まっ

転校生 違うわ。同じ色、同じ形がいいなんて間違ってるわ。花は色とりどりだからこそ美しいのよ

副団長 うるさい。口答えするんじゃない。『花となれ』、これがこの学校の校則だ。この学校の生徒は、この学校の校訓のもとに、明るく健全な学校生活を送らなければならぬ。この学校に入ったなら、この校則に従え！

転校生 あんた達、怖いよ。生徒が別々の方向に走って行ってしまふのが、怖いよ。

軍団 うるさい！お前になんて言われようと、この学校では校則が全てだ。

団長 その、チャラチャラとした服装が気に食わない。着替えさせろ！

軍団はい！

(軍団、転校生の周りの椅子に乗り、生徒は操られたまま、椅子を取り囲み、制服に着替えさせる。転校生は、風紀軍団の言いなりになっていく。他の人々は元の位置に戻る。)

団長よく似合っておるぞ。

副団長これでお前も花摺学園の一員だ団長以後は大人しくしてろ！

(軍団。一斉に向きを変える。)(音楽に合わせて軍団が去り、それに続いて操られたように生徒達も去っていく。)

転校生、椅子をきちんと並べ始める。それを見ている美玲を突き飛ばし、椅子をまた並べ始める。そして黒板を消し初めて中央まで来る。生徒達、ほっとした表情で入ってくる。)

石田ねえねえ、皆見て。ほうら、すごいでしょ

(本当のスカートの下に違反物のスカートをはいており、それをめくって、皆に見せびらかしている。みんな感心したり、呆れたりしている。)

丹野私なんかね、ほら。口紅、ビューラー、……すごいでしょ。

(胸ポケットから色とりどりのハンカチと共に、違反物が出てくる。これには皆「すごい」という表情。)

日下田すごい。私も見習わなくちゃ。

(チャイムの音で生徒、自分の席へ。厳しい授業の始まりである。『カルメン』の曲に合わせてダンスで授業が表現される。礼をする。座る。腕をまくる。本を開いて何かを書く。腕を組んで考える。首を傾げる。(左、右)本を開いて立ち上がる。一列に並ぶ。客に向かって歩きながら本を読んでいる。中央に向かって本を左・右・上にやり、端から手を叩いて(答えがわかった)自分の席に戻って書き始める。全員戻ったところで一番端の生徒が手紙を回し、最後の人が広げて客に見せ

る。見せたら先生に見つかり、立たされ、手紙を後ろに隠し、一つ前の生徒を指さす。指さされた生徒、立ち上がり「自分じゃない」と一つ前の生徒を指す。指された生徒、立ち上がり、手紙を回した生徒を指さす。手紙を回した生徒、「知らない」というような動作。全員立ち上がってその生徒を怒る。みんなハッと気づいて急いで席に戻ってポーズ。心人は黒板を取りに行き、その他の人は書きまくる。伸びをして(左・右)もう一回、伸びをして肩を叩く。(左・右1回)前にだらんと倒れて、思い思いのポーズ(さらに授業は生徒による発表へと進んでいく。他の生徒は授業など聞いておらず、遊んでいる。)

学校委員ですから、結局ルイ十世も、マリイ・アントワネットも処刑され、ロベス・ピエールによる恐怖政治などの後、1799年、ナポレオンを中心とする統領政府の成立によって、このフランス革命は終わったのです。なにか質問はありますか?(生徒、遊んでいたのを慌ててやめて、真面目な顔になって前を向く。)

転校生人権宣言の内容を教えてください。

生徒たち、また遊び出す。

学級委員人権宣言には人民の自由、平等、そして主権在民などが述べられています。他には何かありませんか。

生徒、また慌てて前を向く。

学級委員では次に、私がこの革命のことについて調べているうちに会った一枚の絵を皆産に紹介したいと思います。(年表をめくって、一枚の絵を見せる)生徒、黒板の周りに集まる。学級委員この絵は人民が国民を起こすときの絵です。私はこれを見て非常に感動しました。これはウジェーヌⅡどらたろわという人が描いた絵ですが、『民衆を率いる自由の女神』という題がついています。この自分の席に戻って書き始める。全員戻ったところで一番端の生徒が手紙を回し、最後の人が広げて客に見せる。見せたら先生に見つかり、立たされ、手紙を後ろに隠し、一つ前の生徒を指さす。指さされた生徒、立ち上がり「自分じゃない」と一つ前の生徒を指す。指された生徒、立ち上がり、手紙を回した生徒、「知らない」というような動作。全員立ち上がってその生徒を怒る。みんなハッと気づいて急いで席に戻ってポーズ。二人は黒板を取りに行き、その他の人は書きまくる。伸びをして(左・右)もう一回、伸びをして肩を叩く。(左・右1回)前にだらんと倒れて、思い思いのポーズ(さらに授業は生徒による発表へと進んでいく。他の生徒は授業など聞いておらず、遊んでいる。)

転校生この人たちは本当に自由を求めているんですね。

学級委員 そうだと思えます。こんなにたくさんさんの犠牲者を出しながらそれを乗り越えてゆく自由の女神の力強さに私は惹かれました。これで私の発表を終わりにします。

生徒、感心して席に着く。二人、黒板をはける。

そして授業は世界史から国語へと進んでいく。

山崎（詩の朗読） 本当の君よ立ち上がれ仲間からのプレッシャーを屈するとき君は彼らと同じレベルに落ちる自分自身の信念を主張するとき君は仲間たちを君のレベルに引き上げる大衆とともに動くならば君は彼らより遠くには行けないのだたとえ四千万人の人間が信じていてもばかなアイディアは依然としてばかなアイディアだ潮の流れにただ乗って泳ぐだけなら君はどこにも行き着けないだから、もし君が何か立派な真正銘のそして明るいものを信じているならそれを擁護して立ち上がらなさい

転校生 もしかしたら君の仲間たちも利口になって君の道の方に引き寄せられるかもしれない

（『アメリカの心』 ユナイテッド・テクノロジーズ・コーポレーション編集より 学生社 訳岡田芳郎、楓セビル、田中洋）

転校生、何かを決心した表情で、中央に歩み寄る。

生徒、つられて立ち上がる。

丹野ジョージア、、、、。

転校生、制服を脱ぎ捨てる。

転校生暴力に等しいかたちで人を拘束することなんてできないわ。私たちは今、立ち上がるべきよ。

学級委員でも、ここは学校だよ。学校っていうのはね、すごく大勢の人が集まってできているんだよ。一人一人が勝手なことをしたら、学校の中が滅茶苦茶になっちゃうよ。確かに不合理な校則もあるかもしれないけど、それにいちいち文句を言うのってわがままだよ。



美玲 どうして不合理だってわかってる校則を、守らなきゃいけないわけ？ 日下田たとえば、黒いゴムなんて、なんの意味があるの？  
加賀学校は勉強しにくる所なのになんで色ゴムなんて必要なのよ。

丹野 じゃあさあ、制服はどうして毎日毎日同じのを着てこなきゃ行けないの。私は嫌なんだけど。

尾崎 そうかな。私は制服っていいと思うよ。だって毎日なにを着ていなきゃ行けないか考えなくて済むし、経済的だと思わない？

石田 思わない。みんなが同じ服を着てこなきゃ行けないなんて、みんなの個性無くなっちゃうじゃん。

尾崎 それっておかしいと思う、どうして制服着たくらいでみんな同じになっちゃうわけ？ それって本当の個性じゃないよ。

丹野 こんな校則だらけのなかで、どうやって個性を出せばいいの？

学級委員はやりだ個性だって、変えられるものじゃないでしょ。それに制服が嫌だっていう理由が不純なのよね。

本庄 あのですね。校則は皆さんが楽しく学校生活を送る上での最低限のルールであります。だから、これがないと話になりませんのです。

浅井 厳しく縛られたんじゃない、校則さえ守ればいいと思うようになって、自主性がなくなるんじゃない？

峯浦 そうかな。校則があるからって、自主性がなくなっちゃうの。そういうのっておかしいよ。

学級委員 だいたい、校則なんて合理的だとか不合理だと言う前に、この学校の校風を作っている一つの要素じゃない？ 私はこの学校が好きだから、この校則も好きなの。

本庄 私もそう思います。この学校って、昔からこういう学校なんですよ。誠実ってイメージで世間から見られていますよ。学級委員そ

うだよ。それにこの校則が嫌いなら、この学校、私立なんだから、どこかほかの自由な学校に行けば？（ざわめき）

美玲 学校っていうのは、私たちのものなんだよ。なんで先生が作った校則のために私たちが学校を辞めなきゃいけないのよ。そんなじゃ、先生のための学校になっちゃうじゃない。そんな校則なんて要らないわ。

日下田 私も先生が作った校則なんて要らないと思う。

学級委員 どうしてよ。

丹野 だって私たちの校則だよ。校則っていうのはさ、私たちの自由を守るために作られたものじゃない。だから良いものは残して、納得のいかないものは変えようよ。

学級委員 この学校は私たちだけの学校じゃないよ。うちの母親とか兄弟がこの出身者だから思うのかもしれないけど、ここを卒業した人の気持ちはどうなるのよ。浅井 そんなこと言ったって、今の校則って戦後まもなくに作られたものじゃない。そんなのを守らなきゃいけないなんて、時代は変わっていくのに古くさいのよ、考えが。（言い争いになる。）

丹野 だからさ、もっと前向きに考えればいいの。いいものは残して悪いものは変える。これってどういうことに関しても言えることじゃない？だから、どういう校則が必要で、どういう校則がいらぬのか、そういうことを考えれば先輩にも面目が立つでしょ。

峯浦 私がどうしてみんなが、そんなに校則にこだわるのかが分からない。

本庄うちの学校って、確かに校則厳しいけど、他にやるべき事が沢山あるじゃないですか。尾崎そうだよ。こんなことにエネルギー使うのってバカバカしいと思わない？いくらさ学校が変わったって、私たち自身は変わらないんだよ？適当にやっつけばいいじゃん。校則なんてどうだっていいの。丹野そういうのって、ただ校則に対する意識が薄いだけじゃないの。私たちみたいにちゃんと考えれば校則だって大きな存在になるのよね。

日下田 遥子みたいに、考えなくなるようじゃ、おしまいじゃない。

尾崎 考えた結果がこれなのよ。

本庄 私はまだ、文句ブツブツ言ってるだけで守ろうとしない、あなたたちがわがまに見えますけど。

美玲 私には考えることを避けているようにしか見えない。

本庄 そういうことを考えているのは、山崎さんたちだけじゃないんですか？

美玲 だって、校則変えたって、あんたたちが言ってるような皆が納得できる校則なんてできやしないよ。それぞれの価値観があるんだから。それだったら、みんなが皆の中の規則を作って、それを守ればいいじゃない？本当の自由ってそういうことだよ。

丹野 そうだよ、別にあんたたちは、今まで通りにしてればいいんだよ。私たちは自由にやるから。

尾崎 花付けることに何の価値があるっていうのよ。

学級委員 もう、みんなわがまま。わがままと自由って違うんだよ。言い争う。

加賀 もう、みんなばかじゃないの？校則なんてどうだっていいよ。他にやることがないからって、私たちまで巻き添えにしないでよ。うるさいの、迷惑なのよ。

石田 あんた達の方がよっぽどの馬鹿者よ。ノンポリっていうのか何も考えていないのよ。

学級委員もうみんなわがまま。初めからあるんだから、守ればいいじゃない。

丹野 そういうことをね、傲慢っていうのよ。(みんな、立ち上がって言い争う) 美玲ねえみんな、風紀軍団に要求を出そうよ。

石田 あの風紀軍団に？

美玲 校則をぜんぶなくしてもらうのは無理かもしれない。でもゴムは黒じゃなきゃいけないとか、そういう細かい規則を自由にしてもらおうよ。私は今日花をしてきたけど、私自身は何も変わらなかった。今の私たちって、フランス革命前のフランス市民みたいなものよ。あの人たちはバスターイーユ牢獄が怖くて、言いたいことも言えなかった。私たちだって同じじゃない。今までの私たちは改心部屋や風紀軍団が怖くて何もしようとしなかったじゃない。このままじゃ、私たちが、ほんとうにほんとうに考えることさえできなくなってしまうわ。

転校生 ちょっとみんな聞いて。こんな、形だけにとらわれている校則は改めてもらえるように、私たちは学校側に要求すべきよ。昔、ジョイナーという陸上の選手がいたでしょ。彼女は誰よりも速く、そして誰よりも美しかった。私、形だけではその人を判断することはぜったいできないと思う。サングラスをかけていても私は私。学校はただがんじがらめの規則で理想的な生徒を作り上げようとしているだけなのよ。

学級委員 私たちはいざ法律のなかで生きていくことになるのよ。一人の人間として、生きる義務も権利きちんと果たせるように、この小さな社会で訓練を受けているだけのことなのよ。

転校生 今のままでは権利なんて何一つ認められていないじゃない。ただ、たくさんの義務に縛れて、それを我慢しているだけでしょ。これじゃ、義務感なんてとうてい養うことはできない。だって、みんな何も考えずに守らされているだけじゃない。それは義務を果たしているんじゃない。押しつけられているだけなのよ。なぜ花を付けてはいけないのか。なぜ漫画を持ってきてはいけないのか。なぜ化粧をすべきでないのか、一回でも考えたことあるの？

学級委員 さっき、みんなで話し合ったじゃない。

転校生それはただ文句を言っていただけでしょ。私たちはもつと自分たちの頭で考えて、そして自分たちで答えを見つけていくべきなのよ。私たちが考えることを始めないかぎり、何一つ今の状況は変わらない。私たちは自分自身の本当の自由に賭けて戦うべきよ。

(大砲の音)

丹野 あつ、危ない。(生徒たち、椅子でバリケードを作る。風紀軍団登場。) 団長 学生の本分は勉強である。おとなしく勉強している。

尾崎 冗談じゃないわよ。こんな気持ちで勉強なんてできないわ。

丹野 あつ、また来たわ。(バリケード、移動。大砲の音、続く。)

副団長 もうこれ以上、彼女たちの傍若無人な振る舞いを見逃すわけにはいかない。停学だ。いや、退学だ。

団長 いや、しばらくこのまま泳がせておこう。そこで一気に取り締まるのだ。たまにはエネルギーを発散させるのも必要だろう。(軍団の笑い声。バリケード、移動。)

尾崎 私は今まであの人たちに従いさえすればいいと思ってた。だから校則なんて関係なかった。でも私たち、ここで戦わなかったら、何か失ってしまうような気がする。

美怜 そうよ。あの人たちは、私たちを一人一人の人間として見ていないのよ。それが問題なのよ。

本庄 でも、あの改心部屋が待っていると思うと怖くて……。

丹野そんなこと言ってたら、何もできないよ。

本庄こんなことやって何になるんですか。

美玲何になるのって、やってみなきゃ分からないじゃない。

本庄そんな安易なもののですか。

丹野私たちの自由に賭けて戦うのよ。さっきジョージアが言ったことを聞いてなかったの？

本庄そんなに簡単に自由なんて言わないでくださいよ。私たちには理解できません。

学級委員そうよ、理解できないわ。

団長自由など、学校にいらん。すべての秩序を乱す自由などいらん。決まりこそがお前たちを成長させるのだ。拘束されるからこそ、お前らの自我が芽生えるというものだ。あのマスクメロンとて同じこと。成長の途中で水やりを制限することで表面の皮が傷つけられ、袋をかぶせられ、そうしてあの美しい姿を得るのだ。お前らは今の苦しみから逃げ出したいだけなのだ。春に美しい花を咲かせるためには、雪とて大切な役割を果たすのだ。お前らはマスクメロンにはなりたくはないのか。一生を雑草のまままで終わらせてもいいのか。

軍団無駄な抵抗はやめろ。

副団長学級委員、お前は規則を乱す者たちの味方なのか。付和雷同して何になる。学級委員バッヂに対して、恥ずかしくはないのか、全責任はお前にある。責任を取ってもらおう。

石田もうやめようよ。しょせん軍団には勝てないよ。あの人たちは、私たちの要求を受け入れてはくれないよ。

丹野諦めるのはまだ早いよ。本庄じゃあ、本間さんはどうなるんですか。本間さんは私たちのために責任を取らなきゃいけないかもしれないですよ。転校生どんな責任を取らせるっていうの。

団長名誉ある学級委員バッヂが、お前の胸を貫くことになるだろう。

本間ウツ。(倒れる本間)私、もう駄目。

生徒たち本間!(駆け寄る)

本間みんな、学級委員としてみんなをまとめられなくてごめんね。

生徒たち本間!本間(首を垂れる)……。

生徒たち本間!

転校生本間のためにも、私たちは最後まで戦うべきよ。

団長戦闘開始!

軍団・生徒オーツ。(闘の声)

軍団と生徒たちの激しい戦いが繰り広げられる。

転校生はひとり、フランスの国旗を手に生徒たちの先頭に立って士気を鼓舞している。

背後にはあの詩が静かに、しかし、確かに流れている。  
そして、やがて、いつもと変わらない教室の風景。

学級委員 起立！礼！生徒たち、教室を出て行く。

学級委員（廊下で倒れている山崎に）美玲！どうしたの？

山崎（目を覚ます）本間？……学級委員バッヂ……。

学級委員 何やってんの？まともに起きてるとき、ないんじゃないの？気をつけてよ。

美玲……いつもの本間だ……。嫌だ、あれってぜんぶ幻想だったの？いや、妄想……。

学級委員 独りでぶつぶつ言わないでくれる？

美玲 おかしいなあ……。 （頭の花を取る）

学級委員 ちょっとお！今日、誕生日じゃなかったの？

美玲 いいのよ、もう。

学級委員 信じらんない。さっきはあんなに息まいてたくせに。

美玲 うるさいなあ。いって言ってんだからいいの……。それに……。誕生日だなんて、嘘……。ちよつとやってきてみただけなの。あんた、それより名誉バッヂだかなんだか知らないけど、さっきはごめんね……。とか言って、そこでカッコつけて死んだんじゃないのよ！



学級委員 死んでないわよ。あんた、また私に喧嘩売る気？ 美玲何よ！ 舞こそまた喧嘩売る気？ いい加減にしてよ！（本間を突き飛ばす。バッヂの針が手に刺さる）  
痛い…………。

学級委員 ごめん………… だいじょうぶ？

美玲………… 私、もう駄目…………。

学級委員 ばっかじゃないの？ これくらいの怪我で。

美玲 あーあ、学級委員バッヂに手を突かれた…………。

学級委員 だからごめんねって、謝ってるじゃないのよ。

美玲 本間の痛みが分かった…………。

学級委員 は？

生徒が入ってきて、日常の賑やかな風景が展開されていく。二人の会話はややかき消されて、

美玲………… 本間の………… 心の痛みが分かった…………。

学級委員 何言ってんのよ。分かんないわよ。

美玲 学級委員もけっこう、大変なんだなあ、と思って。

学級委員 どうしたの？ 立たされ過ぎで、頭おかしくなったんじゃない？

美玲違うわよ。

生徒たちが入ってくる。

学級委員本当にどうしたの？花まで取っちゃって…。

美玲あんまりむやみに反抗するのはやめようと思って。

学級委員なんで？

美玲それって……本当の自由を求めるのとは、違うみたいだから。

学級委員美玲らしくないんじゃない？

美玲考えて行動したいのよ。

学級委員美玲が？

美玲疑問を持たなきゃいけないのよ。

学級委員何かおかしいんだよな、ほんとうにどうかしちゃったんじゃないの？

美玲いいじゃないの。私は私個人なんだから。お互いに、お互いのポリシー持ってやろうね。

学級委員美玲、さっきのこと、怒ってるの？美玲そりゃあ、さっきは本気で怒ってたけど。……でも今は花なんだろうだっていいから。

学級委員あたしだってさ、本当は嫌なんだよ、こんなみんなからは嫌われたくないし……。

丹野ねえねえ聞いてー！（教室に駆け込んできて椅子を倒す）

学級委員あー！さっき直したばかりなんだからー。

丹野ごめん。ねえ、テストだって。次の国語、漢字のテストだって。抜きうちだよ。みんな、ざわつく。

学級委員あ、何だっけ。

美玲本間の気持ちはわかってるよ。

丹野起立！

石田えー！転校生ですか？

生徒たち、転校生を見つけ、わいわい言って、取り囲む。中央まで連れてくる。

学級委員着席しよう！

転校生、ゆっくり振り返り、驚く美玲に手を差し出す。握手をする。

転校生ハワイのセントメアリー・ハイスクールから転校して来ました。ヨシコ・ジョージア・シミズです。

一面微笑をたたえる転校生。それに応えんばかりに期待に胸を膨らませる生徒たち。

そんな中で一人呆然としている美玲。彼女の頭には、もう花はない。

—幕—